



がん啓発キャンペーンイベント

リレー・フォー・ライフ とくしま2011

小松島しおかぜ公園

SAT 13:00 SUN 13:00

10/8-10/9

原則 雨天決行(中止あり)



振込先口座：阿波銀行川内支店(普)1181245

リレー・フォー・ライフ 徳島 2011 徳島実行委員会



リレー・フォー・ライフ
とくしま 2011 へのメール

命 生きる
ありがとう。



リレー・フォー・ライフ
とくしま 2011 Home Page

RFLはアメリカで始まり、現在では世界20カ国以上、日本では28か所で行われているがん患者支援チャリティイベントです。24時間交代で歩くリレー・ウォークや天国に召された人たちのために、がんと闘っている人たちへ思いを届けるルミナリエなどを通して地域全体へがんの知識の啓発や予防活動などを行っております。みなさんもぜひ参加してみませんか？



肺がん (各日100名) ・
乳がん (各日50名)
無料検診車が来ます！



主催：リレー・フォー・ライフ とくしま2011 実行委員会、公益財団法人日本対がん協会

共催：財団法人 徳島県総合健診センター 特別協力：アメリカ対がん協会

お問い合わせ：リレー・フォー・ライフ とくしま2011実行委員会 実行委員長 渋谷義久

事務局：rf1_tokushima@yahoo. co. jp

後援：厚生労働省、徳島県、徳島県医師会、徳島市医師会、小松島市医師会徳島県薬剤師会、徳島県教育委員会、徳島市、徳島市教育委員会、小松島市、小松島市教育委員会、阿南市、阿南市教育委員会、阿波市、阿波市教育委員会、鳴門市、鳴門市教育委員会、美馬市、美馬市教育委員会、吉野川市、吉野川市教育委員会、北島町、北島町教育委員会、藍住町、藍住町教育委員会、板野町、板野町教育委員会、上板町、上板町教育委員会、佐那河内村、佐那河内村教育委員会、徳島県立中央病院、徳島赤十字病院、徳島市民病院、徳島大学病院、東徳島医療センター、徳島看護師協会、とくしま県民活動プラザ、徳島市生涯福祉センター、NHK徳島放送局、(株)四国放送、徳島新聞社、(株)FMびざん、(株)東阿波ケーブルテレビ、(株)エフエム徳島、日本赤十字社徳島県支部、徳島商工会議所、小松島商工会議所、徳島県中小企業団体中央会、徳島県商店街振興組合連合会(順不同)

3人に1人ががんで亡くなる時代

リレー・フォー・ライフの寄付は このように使わせていただきます

さまざまな企業、団体、個人からの寄付に支えられています。中でも、リレー・フォー・ライフで寄せられた寄付金は主に、患者さん、ご家族、がん経験者の方々を支えるために必要な支援活動のための大事な源となっております。

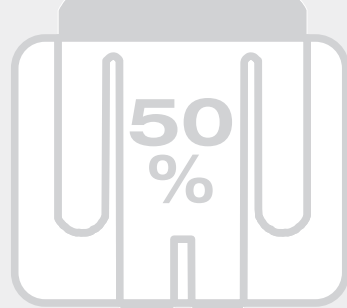
2010年の参加総数は36,350人（実行委員総数597人、参加サバイバー数2,525人）で全国の実行委員会を通して皆様から世界と国内分を合わせて2,880万円を超すご寄付をいただきました。ありがとうございました。

若手医師に専門性を高めてもらうため3カ月から6カ月の研修を8人が受けました。がん相談「ホットライン」を拡充し、看護師、社会福祉士のスタッフは7人増えて17人態勢になりました。全国から多くの方に利用していただいています。

がんを考える 「プロジェクト未来」を発足

新しい治療法や新薬開発に向けた研究にリレー・フォー・ライフとして力を貸すことはできないか。日本対がん協会と全国でRFLを開催するボランティアのみなさんは同じ気持ちでいます。医療現場の課題に役立つ方法を両者はいっしょに議論してきましたが、その一歩として基礎研究をする研究者とネットワークを作り、話し合いを始めることになりました。その名は「プロジェクト未来」です。治療はもとより研究が花を咲かせきつと形になるよう願いを込めています。さらに、患者サイドに立つ新たな支援プログラムを考えていきます。

がん検診受診率向上！ 17%→50% 達成



早期発見、早期治療こそ最大のがん予防。国際的にみても国内の受診率はまだまだ低いのが現状です。毎年、マンモグラフィや検診車を使った検診や、セミナーを実施、チラシ、小冊子など多くの啓発資料をつくって呼びかけています。

若手医師にRFL奨学金

のべ143人のがん専門医を育ててきました。2010年度からは米国のMDアンダーソン病院への研究助成をはじめ、国内では2011年度から8カ所の大病院での研修を続ける若手医師を支援しています。国際対がん連合、日本癌学会などの研究陣とも手を組んでいます。

悩みをサポート

全国で面接・電話による相談を年間10000人お受けしています。祝日を除く毎日実施している電話相談「ホットライン」(03-3562-7830)はさらに拡充をめざします。18:00まで時間を延長しました。協会では、セミナーやシンポジウム、患者会の作り方、地域在宅支援プログラムなど多彩な企画を増やし、困ったとき、不安なときに手を差し伸べます。

*2011年は上記4つに加えて、被災地がん患者支援を進めます。震災後のがんに関する事情を調査し、病院や自治体と相談しながら具体的な支援方法を計画します。

*各事業とも協会一般会計と合わせて推進しています。プログラムの進み具合により数字は変わります。

*日本対がん協会と各地実行委員会で構成する全国実施事務局では、上記の用途だけでなく治療や研究なども含めた医療現場のさまざまな課題にどうしたら貢献できるか幅広く議論を続けていきます。